

令和3年7月15日

根本正顕彰会会報 第97号

発行者 根本正顕彰会



「踏まれても根強く忍べ路芝のやがて花咲く春をこそ待て」

目次

- 1 巻頭言「新型コロナウイルス感染の沈静を願って」
会長 増子輝雄 1頁
- 2 令和3年度 根本正顕彰会 総会（報告） 事務局 2頁
- 3 第1回公開講座「根本正 教育への情熱」（報告）（附：資料）
（講師 理事 仲田昭一） 事務局 4頁
- 4 <トピックス> 13頁
大子駅前の根本正翁胸像の化粧直し
根本正顕彰会の展示「根本正と幕臣たち」開催
- <編集後記> 14頁

【お知らせ】（予告）

1 令和3年度 根本正顕彰フェスティバル —根本正生誕170周年記念—

- (1) 日時 令和3年8月29日（日）
13：30～17：00
- (2) 会場 ふれあいセンターごだい（那珂市後台）
- (3) 記念講演と現地見学（生家周辺）
 - ① 演題 学び続けた青春・文教地区「清水原」
講師 増子輝雄 会長
 - ② 演題 「政治家としての根本正と五台地区の尊王遺跡」
講師 仲田昭一 理事

2 根本正ゆかりの地を訪ねる旅

期日＝令和3年9月26日（日） 方面＝ 山方宿・大子町・埴町方面

新型コロナウイルス感染の沈静を願って

根本 正顕彰会

会長 増子輝雄

依然として新型コロナウイルス感染が続いており感染者、死亡者とも増え続けています。

頼みのワクチンもここに来て、ようやく高齢者に対し先行して接種されるようになって来ました。全国民にまで行き渡るまでにはまだ先になりそうです。この先どのような結果となるのか、いつまで続くのか不安はぬぐいきれないところでもあります。一日も早く沈静化されることを願うばかりです。

さて、とにもかくにも新年度がスタートし、それぞれの事業が実施され始めました。わが根本 正顕彰会も去る5月16日に2年ぶりに総会を開催し本年度の事業計画、予算が審議決定され動き始めました。

今年は根本 正が生誕してから170周年を迎えました。この節目の年にあたり記念事業として、根本 正の青春時代の自ら学ぶことへの執念、そして政治家として教育の強化に取り組んだ精神が今に導かれたように、生誕地周辺が現在文教地区として存在していることの歴史を学ぶ等の、記念講演会を8月に開催する計画で準備を進めております。本事業は地域の出来るだけ多くの方々にお伝えし、地域の発展と将来を担う青少年の健全育成等に寄与しようとするを目的として、地域活動の中心となる組織である、五台地区まちづくり委員会のご協力をいただき実施することで考えております。

また、他の事業も年間を通してしっかりと進められるよう、努力してまいりますのでご協力くださるようよろしくお願いいたします。

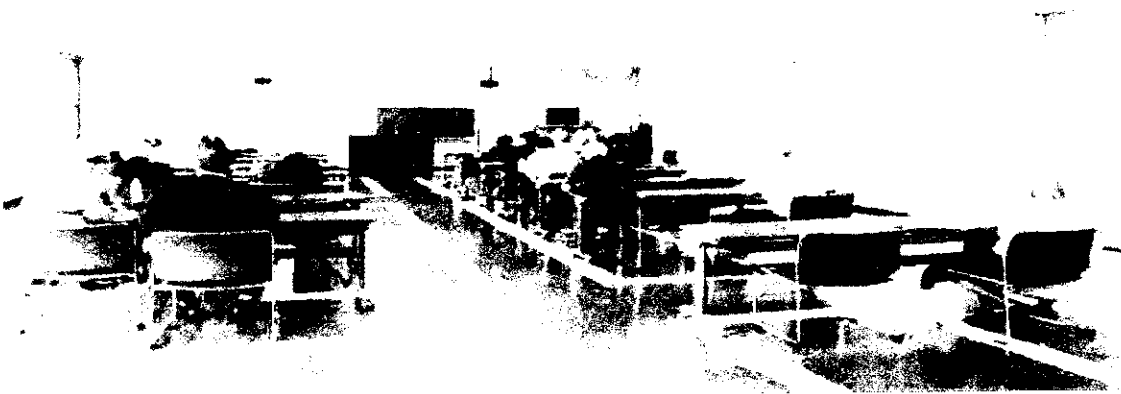
一方、新型コロナウイルス感染の最中であって、今年もまた高齢者対策の費用負担の深刻な問題が大きく報道されています。一つは介護保険の財源についてです。40歳以上が負担する保険料が制度創設から20年が経ち、保険料の月額が創設当時の倍額を超えることとなり負担の限界であるということです。

もう一つは、高齢者医療費の窓口負担額の引き上げです。所得に感じ現在の1割から2割に引き上げようということです。背景には75歳以上の後期高齢者が2年後から急増し財源不足が見込まれることです。

介護保険、医療保険とも超高齢化の進展によって一層深刻な課題となってきています。高齢者にとっては何とも落ち着かない状況になっているところでもあります。国家政策として安定した制度の構築にむけて取組まれるよう望んでやみません。

令和3年度根本正顕彰会総会（報告）

- 1 日 時 令和3年5月16日（日） 13:30～14:30
- 2 会 場 那珂市中央公民館 2階：講座室
- 3 出席者 27名（委任状34名、無回答7名、当日欠席2名；会員70名）
- 4 来 賓 先崎 光市長 遠藤 実県議、大縄久雄教育長（3名ともあいさつ頂戴）
紹介市議 笹島 猛氏 寺門 厚氏



総会会場

- 5 次 第 （受付：海老根 敬理事、勝山 昇理事）

司会進行 小堀 優理事

- (1) 開会のことば 横地富子副会長
- (2) 会長あいさつ 増子輝雄会長

新型コロナ禍のため、昨年度は殆どの事業が中止せざるを得なかったが、本年度はこうして開催できることを嬉しく思う。事業についても、何とか工夫をして本会の目的、大きな目標を達成するためにも進めていきたい。本年は、根本正先生の生誕170年に当たる。100年目には五台村主催で記念行事が開催され、150年目には当顕彰会が設立されて記念行事も行われた。本年は、一つの記念周年として、根本正先生の存在を世の中にPRし、先生に学ぶことの意識づけをして参りたい。具体的には、顕彰フェスティバル事業の中で表していく。



なお、昨年度の事業中止を受けて、本年度の会費は規定の三分の一とすることを後程上程したい。

- (3) 来賓あいさつ

ア) 先崎 光那珂市長

那珂市に於いて、コロナ対策は着実に進行しつつある。4人の市名誉市民の一人であるが、これら歴史の先達に思いを致すよう、若い世代へ伝えていきたい。先般水郡線の崩落

した鉄橋が新たに完成して全線開通が成った。改めて根本正先生の尽力によって敷設された水郡線の有難さを痛感した。太子駅に降り立った時、駅前の先生の胸像を前にして、水郡線の存在意義を表に出して行くことの大切さを再認識した。JRを活用した小中学生の学校行事も考えられたらとも思う。



様々な見地から先生の姿を思い起こしつつ、この会の事業をつなぎ続けて行って欲しい。

ご来賓の皆さま

イ) 遠藤 実茨城県議会議員

総会開催を心より嬉しく思う。一般の水郡線全線開通を沿線住民の皆さまが盛大に祝う姿に接し、関係者のご苦勞に感謝した。また、太子駅に降り立ち、根本正先生の胸像を拝して、往時のご苦勞に想いを致した。地域の皆さまからは、「根本正の胸像が太子駅にあって上菅谷駅にはなぜないのか」などをはじめ水郡線に関する様々なご意見を頂戴する。

先生を顕彰する仕方は様々であろうが、身近なところから進めていきたい。新型コロナ対策について茨城県への提言をしているが、直接対策に当たる那珂市と連携しながら対応に奔走し、人類の危機を乗り越えていきたい。会員皆様の益々のご活躍に期待したい。

ウ) 大縄久雄教育長

市長の提言を受け止め、水郡線の活用について校長会でも訴えてある。市の小学校・中学校一貫教育の中で、「根本正の生き方」と「なかつ子宣言」を根底に据えている。根本正先生については道徳教育資料の中では9年生を対象とした内容となっている。根本正先生については、本年度から那珂第一中学校が総合学習の時間で学び始めており、4月に7年生・8年生が、5月には7年生が学習している。このような取り組みが、市内の小学校・中学校に広まればとその実践に期待している。そのためにも、今後とも顕彰会にはそのお力添えを願いたい。

(4) 議事(議長=山田正巳副会長)

- | | | |
|------------------|------------|----|
| ① 令和2年度事業報告 | (仲田昭一事務局長) | 了承 |
| ② 令和2年度決算報告 | (横地富子副会長) | 了承 |
| ③ 令和3年度事業計画(案)審議 | (仲田昭一事務局長) | 議決 |
| ④ 令和3年度予算(案) | (横地富子副会長) | 議決 |

会費の改定、規定の3千円を1千円とする。

(5) その他

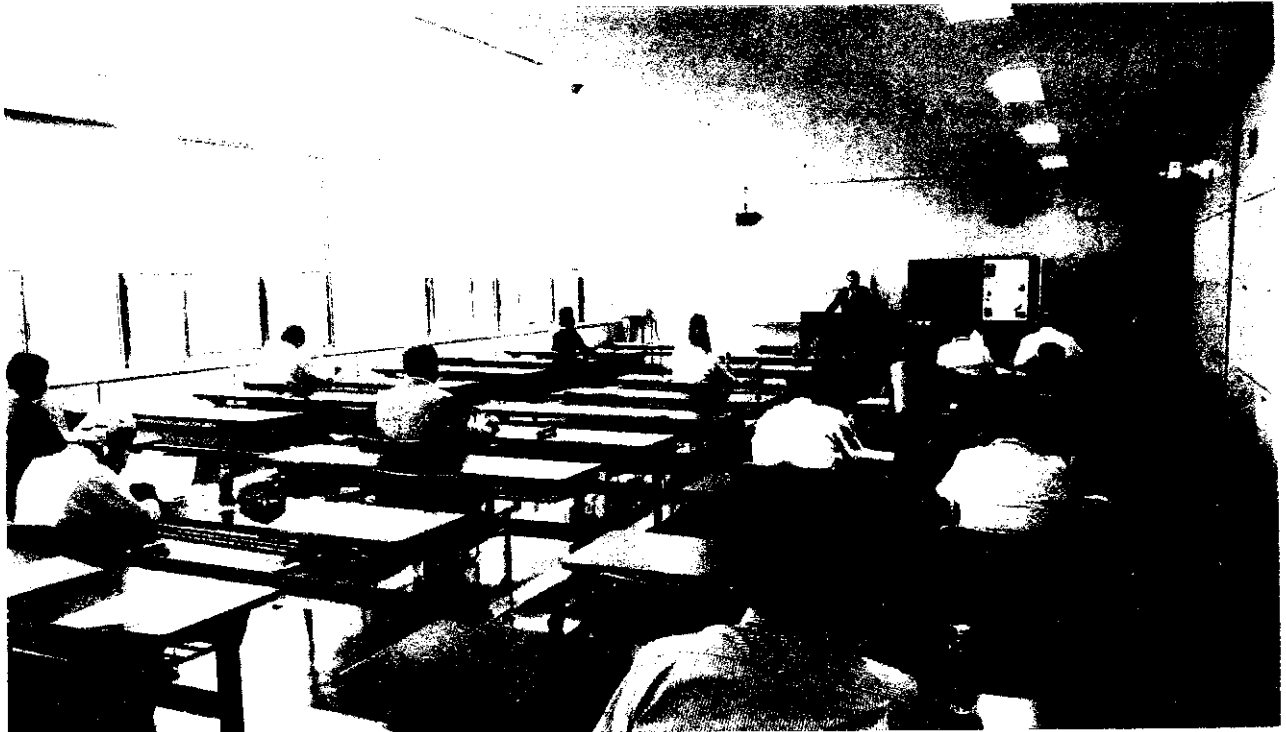
(質問) 根本正が感嘆したという時計とマッチの西洋文化の実情とアメリカでの根本正の体験をもっと具体的に知りたい。

(回答) 質問は承知しているが、十分な理解は進んでいない。引き続き課題としておく。

(6) 閉会のことば(根本正治副会長)

根本正顕彰会 令和3年度第1回公開講座（報告）

日 時 令和3年6月20日（日）
会 場 那珂市中央公民館 2階 講座室
講 師 根本正顕彰会 理事 仲田昭一
テーマ 「根本正 教育への情熱」
参加者 21名



（講座会場）

内 容 要約（根本正『回顧八十一年』を中心に構成した）

1 出自

（1）環境 家族関係

根本正は、東木倉村庄屋の二男。祖父根本半次衛門は学者でもある。父徳孝は西宮村庄屋鈴木家から入婿。鈴木家は坂ノ上村庄屋豊田家から嫁を迎える。豊田家からは藤田幽谷門下で彰考館総裁を務める豊田天功（二男）が出る。近世の民間から出る学者は、多くは庄屋の二男以下である。

- ① 東木倉村庄屋の二男であり財産と時間がある
- ② 人間の成長には、各家の歴史が関係する＝「梅檀は双葉より芳し」＝ 血筋
一方で、経済が人を左右する事も多い。（生活基盤は財産）
「環境を乗り越えて人は成長する」（「貧は富をつくる」）ことも事実である。

（2）勉学への意欲

福沢諭吉の『学問ノススメ』「人の上に人をつくらず、人の下の人をつくらずといえり」人間はみな平等と言われるが、現実には差がある、なぜか「学ぶと学ばざるにあり」この差がないように、人々は学問に励めというのが、『学問ノススメ』の趣旨である。「学問しなければならぬ」と決意し挑むその情熱・意欲はどこから出て来るかが問題である。つまり、人間の能力は不平等である。平等は神の下、法律、権利などである。

2 水戸へ出る

「より高い学問に触れたい」この意欲はどこから出たのか。豊田天功がいたから？
いなかったらどうしたか？

3 先進文化、「マッチと時計」との出会い

新鮮な感受性。どこから身につけたか、生来のものか。どんな人がつくったか？ 英語だ！
英語を学びたい、この積極的意欲と実行力を生みだしたものはなにか？

4 行動が人的環境を生み出す（積極性がさまざまな出会いを創り出す）

中村正直の「西国立志篇」との出会い 「学問を充分する機会を得た」

5 渡米（明治12年：1879）

小学校からやり直そう。大学まで行けなければものにはならない。
支援者は必ず出て来るものである？アメリカ人の懐は広く深い。

6 学問とは何を学ぶのか

- (1) 是非ボストンへ行ってみたい。 独立への気概
- (2) 大統領ガーフィールドの暗殺 本当の忠君愛国とは何か
ガーフィールドは貧窮の家出身、貧乏人の子でも大統領にまでなった。教育の成果である。
- (3) まず、学ぶ機会の平等の実現を。

7 政治家根本正

(1) 明治31年第5回総選挙において自由党から立候補初当選

① 国民教育授業料全廃建議（代議士として最初の仕事）

「政治家の役割とは何か」 理念理想の実現を図る

「素晴らしき国家の建設、国民の育成」

正しき理念を抱き（キリスト教）、国家建設への情熱を抱く（バンカーヒル）国民の育成

(2) 明治32年

② 国民教育授業料全廃建議 2月15日可決

『官報』（号外；明治32年2月1日、「第13回衆議院議事速記録第22号」）

国民学校とは小学校のことを云う。現状は大学など専門の高等教育の補助は厚いが小学校には薄い。

教育勅語に「億兆心を一にし」とる「心を一にする」には、国内億兆の人民が、自由教育の制度を立てるより外に急なるはない。

勅語の中に「咸その徳を一にせん」とある。「咸その徳を一に」しようとすれば、貧民の子

③ 2月18日 小学校教育費国庫補助法案提出 2月23日成立

④ 12月6日 未成年者喫煙禁止法案提出 翌年4月施行

如何なる国民となるかが問題

(3) 明治34年

⑤ 2月9日 未成年者飲酒禁止法案提出 大正11年成立

(4) 教育に関する建議、質問など

美術の奨励の建議 国字国語国文改良の建議 普通教科書・国定教科書問題質疑

市町村立小学校教員俸給国庫補助金増額建議（俸給全額国庫補助）

ローマ字普及建議 商科大学設立建議 小学校教員優待質疑 教育予算の増額

<質疑応答>

① 根本正と郷里との関係、

東木倉村の墓地には子息美倫の墓碑もあるが、よく実家に帰ってきていたのか。

② 米国人の支援を受けたが、実家からの経済的支援はどうであったか。

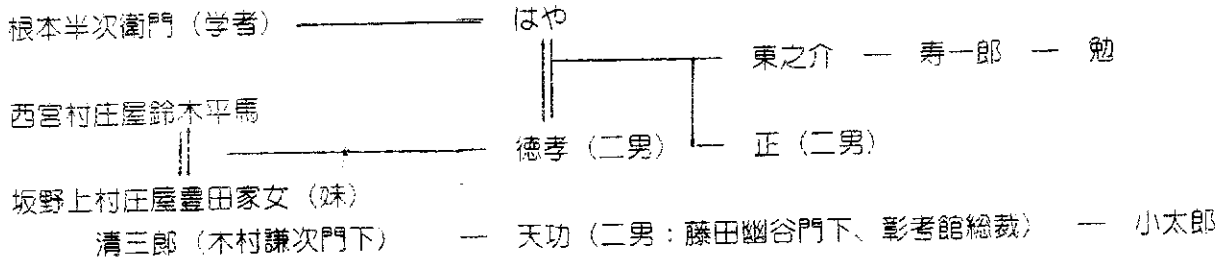
※ 東京へは出たが、心は常に郷里へ向いていた。実家は勿論五台村の行く末に心を配っていた。村の行事や事業などには顔を出していた。しかし、実家からの支援の実態は不明である。

根本正 教育への情熱

(根本正『回顧八十一年』より)

1 出自

(1) 環境 家族関係



- ① 東本倉村庄屋の二男であり財産と時間がある
- ② 親族関係 祖父は学問があり、6・7歳頃は祖父について読み書きを習う
 - ・「梅檀は双葉より芳し」= 血筋
 - ・経済が人を左右する（生活基盤は財産）
 - ・環境を乗り越えて人は成長する（「貧は富をつくる」）

(2) 勉学への意欲

福沢諭吉の『学問ノススメ』「人の上に人をつくらず、人の下の人をつくらずといえり」
 人間はみな平等と言われるが、現実には差がある、なぜか「学ぶと学ばざるにあり」
 この差がないように、人々は学問に励め。
 「学問しなければならぬ」と決意し挑むその情熱・意欲はどこから出て来るのか

2 水戸へ出る

なぜ出たのであるか 「より高い学問に触れたい」
 豊田天功がいた。「家僕でもよい」辛い名高い先生がいる。（いなかったらどうしたか？）

農民にも差はあるが、士・農の身分上の差は絶対的であることを実感する。

（「神はかたよらず」、神の下に人間は平等、法の下に権利は平等。

しかし個々人にはそれぞれ違いがある。いわば不平等である。「みんな違ってみんな良い」）

3 先進文化、「マッチと時計」との出会い

こんな便利なものは「余程伶俐な人作ったに違いない」 ⇒ どんな人か？ 英語だ！
英語を学びたい、しかし水戸ではよい教師がない。 ⇒ 明治4年桑原政・清水某と東京へ
 この積極的意欲と実行力を生みだしたものはなにか？ 藤田東湖の長男健宅

4 行動が人的環境を生み出す（積極性がさまざまな出会いを創り出す）

目的に向かって、自らの力で生活を進める意欲（生活力・生きていく力を発揮）

中村正直の「西国立志篇」との出会い

「イギリス人などの方が、一層艱難辛苦をして勉強し偉くなった」 自立・自律心

「キリスト教の精神を学ぶ」「学問を充分する機会を得た」

5 渡米（明治12年：1879）

中村正直の同人社に5・6年居ても英語で話すことも出来ない。

小学校からやり直そう。大学まで行けなければものにはならない。

支援者は必ず出て来るものである？

6 英語を学んで、それによって何を学ぶのか

学問とは何を学ぶのか

(1) 是非ボストンへ行ってみたい。

独立戦争の記念塔バンカーヒルへ

「独立戦争の時分に、アメリカ人がどれだけ苦戦したか、その実情を偲んでみたい」（いくら自分が鈍くても、啓発されるところが大であろう）「(壊れたイギリスの大砲を見て)なるほどアメリカは独立したのだ。この意気で行こう。いかなる艱難辛苦もこの精神を持ってやったならば、必ず出来る」との確信。



(2) 大統領ガーフィールドの暗殺

いかなる親友といえども不正は為さない、これこそ本当の忠君愛国である。（1848年建立）

「誤りを以て成功するよりは正義を以て死ぬのが何より愉快だ」

ガーフィールドは貧窮の家出身、小学校は無月謝で誰でも受けられる自由教育。

貧乏人の子でも立派になって大統領にまでなった。教育の成果である。

(3) まず、学ぶ機会の平等の実現に奔走しよう。そのために政治家をめざそう。

米国からの帰途、欧州各国を歴訪 世界の現状を確認する

⇒ 日本の現状を再確認し、理想実現の対策を得る

「五箇条の御誓文は聖書である」（福岡孝悌・由利公正）

（「広く会議を起し万機公論に決すべし」など神は片寄らずの精神である）

土佐高知の宣教師フルベッキの影響（片岡健吉・板垣退助・福岡孝悌ら輩出）

明治23年 第1回総選挙に愛国公党から立候補し落選

愛国公党政務調査員として活動 東京禁酒会、植民地探検調査

明治22年帝国憲法発布（立憲君主国誕生） 明治23年教育勅語発布

※ 帝国議会に「小学校授業料全廃」に関する請願書提出

「当・落は問題外、小学校の授業料を全廃しない以上その国は立派にならない。アメリカがあんなに立派になったのは、ガーフィールドやリンコルンのような人が出たからで、それは小学校の授業料をとらないからである。金持ちの子供ばかり学校へ行って、貧乏人の子供は学問も出来ないような国は広びる。」との信念からである。

7 政治家根本正

(1) 明治31年第5回総選挙において自由党から立候補初当選

明治5年5月の学制発布

「邑(むら)に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す」という抱負をもって、個人主義、実学主義を教育の原理とし、「人々自ら其(その)身を立て其産を治め其業を昌(さかん)にして以(もつ)て其生を遂(とぐ)る」

- ・ 国民皆学の理想であるが、学校建設並びに就学の困難 ⇒ 反対一揆も起こる
- ・ 目指す「具体的人間像」は無い
⇒ 教育勅語(キリスト教と同じ人生のバックボーンとなるものが必要)

① 国民教育授業料全廃建議(解散で討議無し) 代議士として最初の仕事

※ 根本正の理念 国民皆学「教育の機会均等」の実現

「(代議士となって)今度は法律にせねばならぬと、そこで小学校授業料全廃に関する建議案を通過せしめました。それが通過したから、今度は勢いを得て小学校教育費国庫補助法案という法律案を出した。小学校の教員の俸給は国庫が出さなければならぬ、大学校や専門学校は幾千万人の内五百人とか、三百人とか少数の人が行くので、日本全国の子供の行くところではない。全国民子弟の学ぶべき小学校は費は国庫支弁でやらなければならぬとかがえたいであります。」

「(その後の教育予算の増加、国民の負担であるがそれは)みな国のためである。日清戦争も、日露戦争も、小学校が無かったならば矢張り支那やロシアのように負けたかも知れない。(ロシアには無学者が多かったが)日本人はみな小学校を出ているから忠君愛国を知っているからであります。」

「政治家の役割とは何か」 理念理想の実現を図る

「素晴らしき国家の建設、国民の育成」

正しき理念を抱き(キリスト教)、国家建設への情熱を抱く(パンカーヒル)国民の育成

(2) 明治32年

② 国民教育授業料全廃建議 2月15日可決

『官報』(号外; 明治32年2月1日、「第13回衆議院議事速記録第22号」)

普通教育は専門教育と異なり国家の公務に属す。授業料を要する学校は公立学校ではない。普通学校を公立するには公税を以て支弁し、貴賤貧富の別なく、何人の子弟を問わず、無月謝で普通教育を受ける制度を立てたいと思う。これをするは国民の義務であるから、政府は速やかに小学校の授業料を全く廃して、公税を以て普通教育を受ける制度を立てて、この帝国議会の協賛を求めよう。したい。

この国民学校とは小学校のことを云う。学齡児童6歳から14歳までの子供だけに国民の義務として、無月謝で教育を受けなければならない。

現状は大学など専門の高等教育の補助は厚いが小学校には薄い。

教育勅語に

「億兆心を一にして世々厥の美を濟せるは、此れ我が国体の精華にして教育の淵源また此に存す」とある。「心を一にする」には、国内億兆の人民が、自由教育の制度を立てるより外に急なるはない。

勅語の中に「咸その徳を一にせんことを庶幾う」とあって「咸その徳を一に」しようとするれば、貧民の子弟も自由に普通教育を修めしむる方がなければならない。国家を富強に致

すには、實にこの勅語に基いて億兆心を一にしてその徳を一にするにあります。
かくの如く聖旨を奉体して益々それを弘めようとするならば、自由教育の制度を立て、無月謝で、普通教育を何人の子弟にも受けさせる方策が必要である。

小学校の授業料は現在 40 銭

学齡児童数は 7,730,441 人 その内不登校未就学児童 300 万人

(100人中36人は未就学) これでは、国を富まし君に忠なる国民とすることは出来ぬ。

国民一人当たりの負担	日本	小学校費 34銭	軍事費 2円40銭
	米国	5円22銭	2円40銭
	独国	2円91銭	
	英国	2円66銭	

財源がないからできないではない。

国民全体の教育負担金 およそ800万円 この捻出方法 砂糖税を活用

今日の砂糖消費 3,600万円 内2,800万円は輸入 自国生産 800万円×25%課税

③ 2月18日 小学校教育費国庫補助法案提出 2月23日成立

④ 12月6日 未成年者喫煙禁止法案提出 翌年4月施行
如何なる国民となるかが問題

(3) 明治34年

⑤ 2月9日 未成年者飲酒禁止法案提出 大正11年成立

(4) 教育に関する建議、質問など

美術の奨励の建議 国字国語国文改良の建議 普通教科書・国定教科書問題質疑

市町村立小学校教員俸給国庫補助金増額建議 (俸給全額国庫補助)

ローマ字普及建議 商科大学設立建議 小学校教員優待質疑 教育予算の増額

(補足)

根本正と国民教育

1 目標発見と実現への意欲

ペリー来航前の嘉永4年(1851)、水戸藩東木倉(茨城県那珂市)の庄屋の家に生まれた。水戸城下へ出て水戸藩の学者豊田天功・小太郎父子に学び、儒学や蘭学を身につけた。水戸藩の郡方役人をしていた慶応4年(1868)、郡奉行服部潤次郎らが持ち帰った時計とマッ子を見て驚嘆。これらの文明を生み出したのは、英語圏の人たち出ることを知り、何としても米国に渡りたいと決心して資金集めと渡米の方策を探り始めた。

ここで注目すべきことの一つは、物事への新鮮な感受性である。その土産を見た人たちは大勢いたはずであるが、驚嘆からそれらの文明を学ぼうと進み出た者は根本正だけであった。それまでの生い立ちの中で、学問する環境にあったことはいえるが、幼少時代から進取の気性を育てることに心がけておかなければならない。

次に、夢あるいは希望・目標を持つことであり、さらにそれへの強い願望と邁進する気力である。人力車夫や警察官などのアルバイトで資金を得、渡米の方策として外国郵便会社に就いてその伝手を得ようとした。

その三には、精神的バックボーンを得たこと。すなわち、キリスト教の世界に目を開いたことである。これは、渡米への大きな布石とも成った。その前に、水戸学に触れたことから水戸光圀を敬愛し、「義公様壁書」を生涯の指針とされた。「苦は楽しみ種の、楽は苦のたねと知るべし」、「欲と色と酒とをかたきと知るべし」などがそれである。

2 政治家として

渡米後、よき支援者を得た後の勉学は他の追隨を許さない努力を重ねた。二八歳で小学校に入学し、大学終了時には代表して卒業記念演説をしている。この間米国の青少年を見て、教育を受けることの重大性を痛感し、義務教育は無償での信念を強くした。その上、決してまねして成らないことは、酒やたばこにのめり込み墮落した青少年の姿であった。義務教育の授業料をやめて、誰でも平等に学校へ行けるようにすべきであると訴えた。その代わり、国家から援助を受ける者が、怠けていることは許されない。健全な精神を以て学問に邁進させなければならない。それは大人の責任である。将来の国家社会を担う立派な青少年を育てるために、未成年者には酒やたばこを飲ませてはならないと強く決意した。

帰国してからは自由黨員となり、明治31年(1899)に衆議院議員に初当選、翌明治32年に義務教育無償を実現させ、同年に未成年者喫煙禁止法を通過させた。禁酒の方は、実現までには難解の連続であった。明治34年(1901)の法案提出以来長年の議論を重ねた結果、21年後の大正11年(1922)であった。これらは、いずれも日本の将来を考え、将来を担う若者を育てるために十分な教育を施さなければならないとの熱い真心から発したものであった。

3 国民教育とは

根本正の活動の背景は、道徳的基盤がしっかり確立されていたことである。水戸学であり儒学であり、キリスト教である。道徳教育は知識の学問ではなく、どう生きるかのぎりぎりの問題を自分のこととして、自分を見つめ続けることである。時には厳しい判断力、決断力を伴うものである。

また、これがなければ自分を磨くことにはならない。ディルフォイの神殿に掲げられていたといわれる「汝自身を知れ」は、永遠の課題でもある。この意味で、新指導要領で道徳教育が強化され、また茨城県で高等学校の道徳教育の授業が始まったことは重大な意義を持っている。

ただし、小学校・中学校では長いこと道徳教育は施されてきたが、いっこうに成果が見られないことは問題である。要は、教師自身の問題である。道徳教育の意義をよく理解し、どのように啓発していくかを自分のものとしてよく認識しているかどうかにある。教師が常に謙虚に先人に学ぶ姿勢を持ち、国家観・世界観を確立させていなければ、子供たちに対しても正しく対することはできない。自国の領土問題である「竹島問題」・「尖閣列島問題」・「北方領土問題」はじめ人権問題である「北朝鮮の拉致問題」などについても、まず自らのとらえ方を明確にしておかない限り指導することはできない。心の問題はなおさらである。

私ども教師は、常に国家国民の将来を見据えて、高邁な理想の元に研鑽を積んでいかねばならないと思っている。(平成24年：2012筆)

子供の立場に立って、子供が健全に成長し、自立できる人間になるよう努力した政治家



根本は明治31年衆議院議員に当選すると「国民教育授業料全廃の建議案」を提出し翌年可決されました。当時小学校では授業料が払えないため子供たちの3分の1（300万人）が学校に行けませんでした。根本は国民全員が平等に義務教育を受け、事が、国の発展と拡大する格差是正に必要と考えました。明治30年代末には就学率は96%になり、その結果、明治40年義務教育は4年から6年になりました。（根本正顕彰会より）

感性

見たり聞いたりしたもののから喜びや感動、驚きを見出す感性を持つ



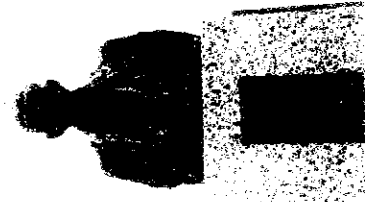
美しい

素晴らしい

不思議だ

こうありがたい

根本 正 氏の教育思想



人は教育の力により初めて人間となるものなり。而して小学教員は教育の初歩なり。……小学教員は実に「人智開蒙の第一機關」國民の総てが一度は必ず過行すべき公道である。この公道を通過しなければ「終生無知の平愚者」となる。然し無知の愚教育の必要は知りつつも「衣食費常に足らざるが為に其親類の平草をして就学せしむること能（あた）はざる者」がいるので、全国の児童にすべて初等教育を授け、上等に平学の原なく、國に平学の民なからしめんと欲せば、少くとも小学校の授業料までは全廃せざる可（べ）からず。……就学生より授業料をとるのは、公道通過の旅人に「國微を課すのと同じだ。」「人智の平均を圍む」ため、富者だけでなく貧者も願うことだ。

主体性

自分の知りたこと、やってみたいことに、主体的に関わり、臆せず挑戦しようとする



やってみたい

実現したい

こうありがたい

身に付けたい

やってみよう

忍耐強さ

自分の夢や目標の実現に向け、困難に負けずに忍耐強く努力し続ける姿



どうすればうまくいけるだろうか

だったら、こうしてみようか

思いやり

周りの人々に対して優しく温かい眼差しを送り、思いやりを持って接する姿



相手のためにできることは……

相手はこんなことを願っているんだな

みんなが幸せになるには……

感謝

自分を支えてくれている周りの人達へ、感謝の気持ちを持ちつつ関わろうとする姿

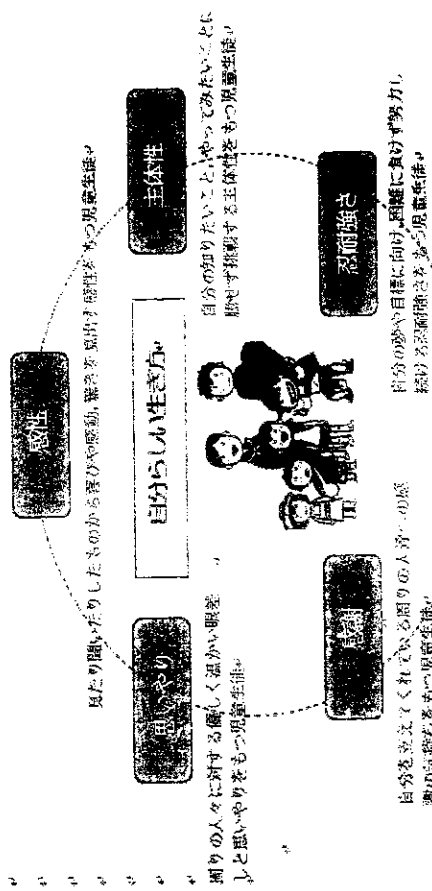


ありがとう

元気なあいさつ

社会のマナーやルールを守ろう

那珂市でめざす児童生徒



根本 正 の教育実践

<大子駅前の根本正翁胸像が化粧直し>

去る5月18日（日）開催された根本正顕彰会総会の場において、前那珂市長の海野徹会員から、

「3月27日の水郡線袋田駅先の鉄橋崩落で、久しく運行が止められていたが、このたび新規架橋が成り全線の運行が再開された。その記念にと乗車して大子駅まで行った。その際、根本正先生の胸像を訪ねたところ、酸性雨の被害からか胸像全体の表面がかなりひどく汚染されていて、真に申し訳ない



気持ちであった。然るべき対応を、顕彰会としても要請したら如何か」

とのご意見を頂戴した。この総会に出席されていた会員でもある先崎光那珂市長、遠藤実茨城県議会議員も乗車されて大子駅まで参られ、同様な感想をお持ちであった。

早速、先崎市長から高梨大子町長に連絡をしていただき、両者間で対応が協議され、修復の見積りが取られることになった。結果は、大子町単独でなされることになり、町では急ぎ化粧直しの作業に入られた。

5月26日（水）大子駅を訪ねたところ、駅前には昭和43年建立当時の美しく輝くまさに「水郡線産みの親根本正翁の胸像」が再現されていた。行政同士の連携プレーの見事さが実った結果に、感謝とお礼を申し上げる次第である。

<根本正顕彰会の展示「根本正と幕臣たち」開催>

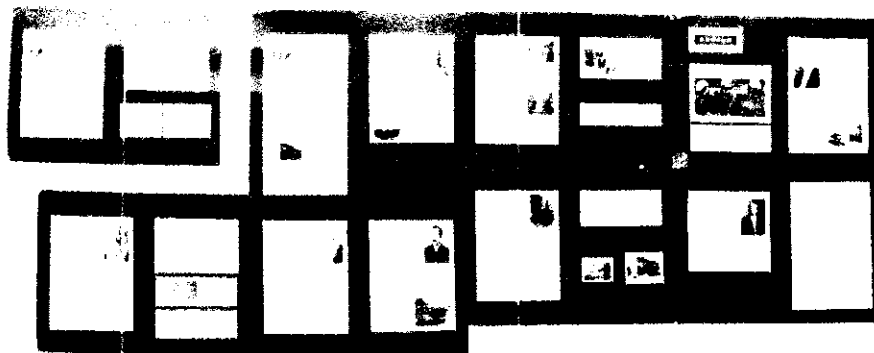
6月1日（火）から那珂市中央公民館の2階展示コーナーで2ヶ月間の展示が始まった。従来は年間の会活動を紹介してきたが、昨年度は新型コロナ感染拡大の影響で殆ど活動がなされなかったため、前会員で水戸・歴史に学ぶ会の代表を務める齋藤郁子さんたちが制作した「根本正と幕臣たち」をお借りして、根本正およびその人物関係を紹介することにした。

水戸藩彰考館総裁豊田天功の学んだ根本正が、パリ万博帰りの土産に接して先進文化に驚嘆、天狗諸生の争乱で揺れる混迷の水戸を脱して東京へ。そこで、海外留学から戻った幕臣中村正直に学び開眼、さらに米国へ渡って世界の大勢を知る。明治の各分野で活躍するのは

海外留学を経験し、五稜郭でも戦った幕臣たちである。

昌平黉や静岡学問所・沼津兵学校・静岡バンドなどで学び活躍した榎本武揚や渋沢栄一・荒井郁之助・安藤太郎・江原素六らを、根本正との関連を含めて紹介した。

根本正顕彰会



編集後記

1 甲子（きのえね） 1924（大13） 1984（昭59）等

会員の皆様、ワクチン接種はお済みですか。私は、6/25に第1回を終えました。テレビでかなり深く針を刺す映像が流れ心配でしたが、チクリとただけでした。副反応も、午後から翌日に接種部分周辺が少し重痛い感じがした程度でした。まさに「案ずるより産むが易し」です。

副反応が出るのは若い証拠だそうです。改めて、72歳は高齢者であると自覚しました。

2 乙丑（きのとうし） 1925（大14） 1985（昭60）等

満72歳の私にとって、今年は少し特別な年です。令和3年の干支は、辛丑（かのとうし）です。昭和24己丑（つちのとうし）（1949）年3月生まれの私は、6度目（生まれた年を入れると7度目）の丑年、還暦（平成己丑）後最初の丑年、つまり還暦後数え13歳、2度目の十三参りの年にあたります。平成己丑生まれの二人の孫は、正真正銘の十三参り。

ともに村松の虚空蔵尊に詣でました。私は、人生100年時代の確かな下山のための智慧と福德を授かるよう合掌しました。

3 丙寅（ひのえとら） 1926（大15・昭1） 1986（昭61）等

今年は、根本正生誕170年の節目の年です。増子会長は、巻頭言で「自ら学ぶことへの執念」「政治家として教育の強化に取り組んだ精神」「生誕地周辺が現在文教地区として存在していることの歴史」等、記念事業開催の趣旨を述べています。

4 丁卯（ひのとう） 1927（昭2） 1987（昭62）等

そこで、私なりに、根本正年表を干支（十干十二支）の視点から見返してみました。

根本正が東木倉村に生まれた嘉永4（1851）年の干支は、辛亥（かのとい）です。次の辛亥である明治44（1911）年、根本正還暦の年に、水郡鉄道（当初は白水線）建設の建議案を提出しています。その次の辛亥、大還暦の年、昭和46（1971）年には、茨城県の先覚者41名の伝記『郷土史にかがやく人々』に久原房之助、菊池謙二郎、横山大観、常陸山たちとともに取り上げられています。

10年後の辛亥、生誕180年にあたる令和13（2031）年に、どのような果実となるか楽しみです。そのためにも生誕170年の節目の今年からの長期計画と確かな実践の積み上げが、何よりも大切になります。

言うまでもなく、10年、20年……170年は、同じ十干となり、根本正生誕の10年ごとの周年では、「辛」の年になります。先の60年、120年以外では、50年の未成年飲酒禁止法提出、100年の五台村主催による100周年式典、150年の本願彰会主催による150周年記念式典、「根本正顕彰碑」建立が、特筆されます。

また、本願彰会発足の平成9（1997）年は、丁丑（ひのとうし）で、今年（辛丑）と同じ十二支「丑」です。つまり、今年が、生誕170年と本願彰会発足24年の二重の記念の年なのです。

5 戊辰（つちのえたつ） 1928（昭3） 1988（昭63）等

前述の『郷土史にかがやく人々』の冒頭「刊行によせて」で、当時の岩上二郎県知事は「できるかぎり多くの青少年がこれを読み、これからの生き方に大きな示唆を得、あすの茨城を築くのに役立つことになれば幸い」と述べています。

6 己巳（つちのとみ） 1929（昭4） 1989（昭64・平成1）等

那珂市は、小中学校一貫教育の中で、「根本正の生き方」と「なかつ子宣言」を根底に据えているとのことです。本市の児童生徒が、根本正の生き方に大きな示唆を得、あすの那珂市はもちろん世界も活躍する「なかつ人」になることを期待します。

そのためにも、我々会員の和を強め、本願彰会を充実させていきたいものです。

水郡線の全線運行再開、根本正翁胸像化粧直しも力に、「根本正顕彰会らしく新しく」生誕180年に向けて力強い確実な走行を続けましょう。

（小坂 隆 記）